

2019（令和元）年度 学校マネジメントシート
三重県立上野高等学校（全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出	○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢
(3) 前年度の学校関係者評価等	○理数科は国公立大学や難関私立大学への進路希望を実現できる進学に特化した学科として期待されている。 ○自らが伊賀地域の発展を考えプロデュースする「上高みらい学」や、理数科の「課題研究」等の学習活動は、探究的な学びとして評価できる。その成果をもっと校外にアピールして生徒の更なる向上心を喚起してもらいたい。 ○伊賀地域から上野高校に進学を希望する生徒の多くは進学が叶った時点で満足してしまっている。高校入学は通過点であり、これからの将来を見据えた更なるキャリア目標を立てて取り組ませる必要がある。地元小中学校の課題でもあるので、連携した取組を進めて欲しい。	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○伊賀地域の中学生の減少に加え、名張市から津市や他府県の高校への進学者が増加傾向にあることから、多様な生徒が本校に入学するようになってきている。習熟度別少人数指導や土曜講座等を実施するとともに、ホームルーム担任による個別面談の充実を図るなどして、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る必要がある。</p> <p>○生徒・保護者の80%以上が国公立大学への進学を希望しているが、合格者は生徒の約30%である。どのような学習指導・進路指導が効果的かを研究し、その成果を学校全体で共有するとともに、進学指導体制の充実と進学実績の向上を図る必要がある。</p> <p>○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進します。</p> <p>○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、ホームルーム活動を中心に人権教育を実施しているが、昨年度、障がい者を蔑む用語の不適切な使用が発覚した。人権意識を高め、いじめや差別を見抜き、なくそうとする意欲と実践力を身に付けた生徒を育成する必要がある。</p> <p>○本校には文武両道の伝統があり、生徒・保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待している。「進学校」としての役割を果たしつつ、運動や芸術文化活動に関する特別活動・部活動の充実を努め、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を推進する必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○本校の教育活動の現状や成果が保護者、中学校関係者、地域等に未だ十分に伝わっていない。ホームページを充実させ、学校説明会や授業公開の在り方を工夫するとともに、学校行事を公開するなどして「開かれた学校づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>○勤務時間外に個別指導、分掌業務、教材研究、部活動指導業務等に従事して恒常的に過重労働に陥っている職員や、放課後の会議等で多忙感を持つ職員が多い。65分5限授業の状況も見守りながら、職員間の連携・協働、効率的な学校運営等を一層促進し、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組を積極的に進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p>
学校運営等	<p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「探究活動に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン1：全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図ります。			
学習指導	活動指標	○教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ○生徒による授業評価年2回実施	教科横断型のグループによる研究授業を年2回実施した。それぞれ検討会は、第1回目はそのグループ別に、第2回目は全体会で意見交換も行った。比較のため、同じものを7月と12月に実施した。 7月実施 86.02%、12月実施 85.06%
	成果指標	○生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）83%以上	
改善課題			
教科横断型による研究授業、生徒による授業評価も効果をあげていると思われる。次年度以降も教科横断型研究授業・事後検討会、生徒による授業評価を行い授業研究を深めていきたい。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン2：生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図ります。			
キャリア教育(進路指導)	活動指標	○SSHの事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を系統的に実施する ○上高みらい探究プログラム 1年 10月：フィールドワーク 11月：ポスターセッション 2年 2月：地域プロデュース発表会 3年 志望理由書・小論文研究 ○進学型インターンシップ 8月：一日看護体験 42名参加 2月：一日医師体験 1名参加。	◎
	成果指標	○「総合的な学習の時間」の授業満足度 80%以上 ○国公立大学合格者数、第三学年生徒の 25%以上	
改善課題			
1年：フィールドワークは積極的に取り組むことができたが、その内容をまとめてポスターセッションで発表する際に、単なる内容のまとめだけに終わることがあり、考察を加えたものになるよう働きかける必要がある。 3年：志望理由書を2年生3学期に練り上げ、3年生1学期に小論文研究をアクティブラーニングで行なった。今後もみらい学で学んだことをスムーズに入試につなぐ方法を検討したい。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン3：スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進します。			
理数科	活動指標	○アクティブラーニング型授業を専門科目の70%以上で実施 ○高大連携先の新規開拓と探究活動サポーターリストの作成 ○「みらい探究R」の授業運営方法の確立と体系的な指導体制の構築	○すべての専門科目でアクティブラーニング型授業を実施（一部の教科で探究授業を実施） ○新たに2つの大学等と連携 本校卒業生や他校の課題研究経験者との連携 ○今年度よりSSHを実施していることもあり、SSH科目の一部で指導体制が曖昧な部分があった。各先生方の協力で授業運営に問題は無かったが、今後検討が必要である。

	成果指標	○生徒の各活動満足度 90%以上	○12月の学習満足度アンケートの結果 理数科 1年生 100% 2年生 79% 普通科 1年生 86% 2年生 65%	
改善課題				
<p>専門科目およびSSH科目においてアクティブラーニング型の授業を実施しているが、より良い形式や内容を研究しSSHの取り組みを推進する。</p> <p>SSH一年目であるため、体系的な指導体制については整理が必要である。</p> <p>成果指標については、集計方法を変更したため目標を達成することができなかった。来年度は集計方法と現状を元に成果指標を考えていきたい。</p>				

項目	取組内容・指標	結果	備考	
◆アクションプラン4：人権教育を積極的に推進します。				
人権教育	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ○教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ○全教職員が年3回以上実施するフィールドワークに1回以上参加 ○生徒が主体的に取り組む小学6年生全員との人権交流会を年2校以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年は11/13、2学年は11/20、3学年は7/3に実施し事後検討会を実施 ○全体研修は10/30と11/22に、小グループ研修は4～5月と2～3月に実施 ○フィールドワークは6/18、6/19、8/22、10/1、10/2に実施し全教職員が1回以上参加 ○生徒が主体的に取り組む人権交流会は、10/4に上野西小学校6年生全員と、12/6に上野東小学校6年生全員で実施 	
	成果指標	○人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加	<ul style="list-style-type: none"> ○人権サークルには、2年生7名(途中で1名が休止)に加え、1年生が4名参加。人数は減少したが、文化祭や県教委主催の地区別人権学習活動交流会などでは、発表内容を考え主体的に準備して発表することができた。2年生は学年集会で平和学習に関して説明・発表。 ○小学校との人権交流会での話し合いには、人権サークル部員に加えHR運営委員・吹奏楽部・ギターマンドリン部の約50名が参加。 	
改善課題				
<p>教職員と生徒にとって、人権問題をより「自分事」としていくための工夫や取り組みが必要である。</p> <p>人権学習や文化祭、小学校との人権交流会や崇広中学校区ヒューマンフェスタ等での発表において、同じ同級生・高校生からの発信は、より児童・生徒の心に響くことを確かめることができた。</p> <p>人権サークル部員の認識・意欲をさらに高めて周囲への発信を促す取り組みは有効で、他校や地域との交流・フィールドワークなどを継続していく必要がある。</p> <p>教職員研修においても、より「自分事」とするための工夫が必要である。</p>				

項目	取組内容・指標	結果	備考	
◆アクションプラン5：生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進します。				
生徒指導	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○登校指導、着こなし指導等共通実践を年5回以上実施 ○保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ○支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○登校指導を合わせて着こなし指導を年間通して実施。特に11月いじめ防止キャンペーン時の挨拶運動は、2年目となり非常に良好である。回数ではなく、生徒の自己指導能力を高められる働きかけを心がけた。 ○メンタルヘルス講演会を各学年の生徒の状況な 	

			どに応じてテーマ設定しながら全学年で実施。 ○事例検討会は特別支援をテーマとし、本校生徒の事例を用いながら、職員研修として学校生活スペシャリストアドバイザーの藤原有花先生よりレクチャーをいただいた。
成果指標	○問題行動による特別指導件数を年20%減少		ケンカ事案1件・いじめを認知した案件2件 頭髮継続指導の度重なる指導 3件、 カンニング等に類似する行為は、今年は0件 そして交通事故についても自転車事故で1件 件数としては、昨年と比較しきわめて減少した。 細かな生徒指導注意レベルの指導は複数件あるものの、特別指導の問題行動件数は2件(1月中旬現在:昨年4件)となり、成果指標に近づけている。

改善課題

挨拶・着こなし等を登校指導・着こなし指導だけでなく、集会時に生徒指導主任の訓話による啓発等で成果を上げていると考えるが、長続きしない。また昨年度、生徒のマナー等における登下校時の行動に苦情が多数あったものの、今年度ほとんどなかったことも啓発の成果として今後も続けたい。特に伊賀鉄道の乗車マナーやコンビニでの行動等は、特化して対策したい。更に、生徒のスマートホン利用過多による学習活動への影響も懸念されるため、次年度対策を検討していく。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン6: 学校情報を積極的に提供・発信し、広報活動を強化します。			
情報発信	活動指標 ○ホームページ掲載件数(更新履歴件数)年70件以上 ○学校の取組を各報道機関に通知する ○生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2会開催	○1月8日現在で61回更新。3学期も更新するので、指標の70回は越える見込みである。 ○文化祭、120周年行事、マラソン大会、授業「みらい探究」に関わる取組など、多数通知した。 ○生徒主体の学校説明会を8月と9月に2回開催	◎
	成果指標 ○令和2年度後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上	○入学志願倍率1.1倍以上達成(12月調査による見込み)。	

改善課題

ホームページの更新箇所が偏っているの、見直していきたい。報道機関への通知は昨年度から大幅に回数を増やせたので、次年度以降も継続していきたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン7: 地域の発展に貢献します。			
地域貢献	活動指標 ○明治校舎 HAQUA ホール等でのイベント年3回以上開催 ○教科・部活動等による地域貢献活動計年15回以上実施	○音楽リサイタル2回、演劇公演3回 ○吹奏楽部、ギターマンドリン部、1年音楽選択生、2年家庭科選択生など、計15回以上実施	
	成果指標 ○マスコミ報道年3回以上	○授業「みらい探究」に関わる活動、新聞部、吹奏楽部、ギターマンドリン部等多数回	

改善課題

「みらい探究」の活動内容が地域貢献と重なる場面が多い。また、地域の人と協力して課題解決していく機会も増えているので、次年度の指標に加えていきたい。

項目	取組内容・指標		結果	備考
<p>◆アクションプラン8：学校運営を継続的に改善する仕組みを整備するとともに、水曜日早帰り推奨デーの設定、週1回の部活動休養日の設定、学校組織として動き会議時間の最適化等を通じ、過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進めます。</p>				
職員満足度の向上	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合 50%以上(H30-43%) ○時間外労働1人当たり月1時間以上削減(H30-月平均 39.0 時間) ○放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 80%以上(H30-74%) ○部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100%(H30-98%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退校できた職員の割合 87%で達成 ○時間外労働1人当たり月1時間以上削減 32.7 時間で達成 ○60 分以内に終了する会議の割合 65%で未達成 ○部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 99%で未達成 	
	成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した教職員 75%以上(H30-72%) ○月 80 時間を超える時間外労働教職員数を年間のべ 50%削減(H30-112 人) ○休暇取得を職員平均年 0.5 日増加(H30-20.4 日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員満足度調査の成果指標については、本校教職員だけの結果を取得できなかった。 ○月 80 時間を超える時間外労働教職員数は、のべ 57 人で達成 ○平均休暇取得22.6 日で達成 	
改善課題				
<p>部活動ガイドラインの設定や休暇取得日数の増加などの取組目標により教職員の過重労働時間削減への意識は高まってきてはいるが、学校の教育力を維持していくための仕事は減少しておらず、生徒・保護者・地域等からの学校への要求はむしろ増加している。教職員個人ではなく学校組織として取り組む体制を構築する必要性がある。</p>				

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○理数科は国公立大学や難関私立大学への進路希望を実現できる進学に特化した学科として期待されている。開設から10年を経過し、SSH校となったことで進路希望に変化はあったのか注目している。より高い進路希望を持ちそれを実現していくような人材を育てる学科であってほしい。 ○伊賀地域から上野高校に進学を希望する生徒の多くは進学が叶った時点で満足してしまっている。高校入学は通過点であり、これからの将来を見据えた更なるキャリア目標を立てて取り組ませる必要がある。地元小中学校の課題でもあるので、連携した取組を進めて欲しい。 ○自らが伊賀地域の発展を考えプロデュースする普通科の「みらい探究F」や、理数科の「みらい探究R・課題研究」等の学習活動は、探究的な学びとして評価できる。その成果をもっと校外にアピールして生徒の更なる向上心を喚起してほしい。 ○他校との違いをどう図るかが重要ではないか、「上高でやると〇〇〇が深まる」というような独自性が必要である。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度の差の大きい生徒集団の学力を保障するために、ICTを活用し教職員の授業指導力の向上に努める。また、新学習指導要領や大学入試制度改革を見据えて自校の教育課程の改善に取り組む。 ○予測困難な将来に対応する学力を生徒に身に付けさせるために、学校教育活動のあらゆる場面で、探究教育活動を推進し、外部に発信する。 ○理数科・普通科共に生徒に「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に判断できるキャリアプランニング能力を育成する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○SSH校として、様々な新しい教育課題に対応していくためには、それぞれの課題に対して学校組織として取り組む必要がある。分掌・学年・委員会等における主任や主担当教職員のリーダーシップの向上を図り全教職員の共通理解のもと教育活動を進める。またこのことは、教職員の時間外労働時間の縮減や多忙感解消のためにも有効であり、チーム学校としての取組を推進する。 ○SSHとしての魅力、理数科と普通科の強み・魅力について検討するとともに、学校情報の発信・提供の在り方について工夫する。